

第一線で活躍するアーティストから学ぶ表現の奥義 言葉のこと、身体のこと、コミュニケーションのこと フィールドは舞台芸術から文化芸術・教育・福祉の多領域へ

ワークショップという手法が舞台芸術の人材育成に登場したのは1980年代あたりから。それまで創造集団における専門家養成のメソッドであった手法を、広汎な人々の参加体験型プログラムとして用いられるようになった。その実践は創造集団のみならず、劇場や教育現場などへと急速に普及していった。

アートファームにおいても創立からまもない1995年に舞台芸術のワークショップを導入した「劇塾」を開講。伝統芸能から現代演劇、コンテンポラリーダンス、舞踏にいたるまでの様々なプログラムを実施した。その大半は、鑑賞事業の「岡山河畔劇場」で公演招聘したアーティストが講師となり、作品づくりの理解を深めたり、言葉や身体を用いた表現の豊かさや楽しさを体験してもらう入門講座として行われた。

この「劇塾」の取り組みを、さらに拡大充実させたのが2001年から開講した「岡山舞台芸術ゼミナール」であった。この人材育成で特筆すべきは、演劇とダンスにおける体系的なプログラムの採用といえる。演劇では戯曲の実作から演技・演出の基礎と演習、ダンスでは身体の発見から舞踏の基礎と演習、さらに舞台技術でも照明・音響・舞台監督の専門実習などを、各分野の第一線で活躍する劇作家、演出家、振付家、俳優、技術スタッフから学び、その成果を参加者がそれぞれの表現活動へと結実させていった。

アートファームの参加体験型プログラムには、現代詩など舞台芸術とは異なる分野への試行もあったが、2014年に発足した「アートとファームの学校」では、その端緒を積極的に拡大してゆくことになった。同学校では、戯曲や短歌など執筆を用いた人材育成型と、後述する生活文化や社会学に関する普及啓発型のプログラムが継続された。なかでも、戯曲講座では全国的な作品公募において複数の受賞作が誕生するといった成果が生まれた。

地方において舞台芸術の専門的な養成機関が整備されていない環境下にあって、アートファームの人材育成プログラムは一定の成果を挙げてきたといえる。そうした実績を踏まえながら、次への取り組みとして重視しているのが社会包摂へのアプローチである。これまでも重度身体障害者との演劇や知的障害者とのダンスなどのワークショップに取り組んできたが、近年はそのフィールドをさらに拡大し、視聴覚障害者、高齢者、小中学生、LGBTQ、フリースクール、夜間中学生なども対象にしたワークショップや公演を開催している。

舞台芸術や文化芸術をこれからの共生社会づくりのプラットフォームにしっかりと位置づけ、それに相応しい役割を果たしてゆくことが、私たちの人材育成事業に課せられた重要な使命であると考えている。

■ 劇塾

1995年10月開講

舞台芸術のすそ野拡大とレベルアップを目的とした人材育成講座を実施

□ 狂言ワークショップ

1995年10月14日～1996年2月10日(全5回) 会場:後楽園・能舞台

講師:田賀屋夙生

能・狂言の解説から発声や舞・謡の実技、面や装束の体験などを実施

□ ダンスワークショップ

1995年11月18日 会場:岡山国際交流センター・体育室

講師:山田せつ子

日本のコンテンポラリーダンスの先達に学ぶ身体表現の楽しさと豊かさ

□ 演劇ワークショップと対話

1996年9月16日～10月21日(全3回)

会場:デビットホール

講師:平田オリザ

現代口語演劇の旗手から基礎と創作の内容で独創的な表現術を指南



演劇ワークショップと対話

1993年の平田オリザ作品『阿房列車』の上演を契機に、全国でもいち早く演劇ワークショップを導入した。当時メセナ施設として注目されたデビットホールに若き平田氏を迎えて、現代口語演劇という新鮮なメソッドを全身に浴びた。



ダンス・フィルムグラフィー Vol.1+2
大阪千日前にあったトリイホールのプロデューサー・大谷煥との出会いから生まれた企画。土方巽と大野一雄の貴重な映像記録を上映したが、鑑賞者の少なさに岡山の舞踏家たちに落胆した。

□ 演劇レクチャー「劇作の原風景」

1997年11月28日

会場:岡山市民文化ホール・リハーサル室

講師:北村想

名作『寿歌』公演にせて劇作家から戯曲作法を学ぶ

□ ダンス・フィルムグラフィー Vol.1

映像で綴る「大野一雄・舞踏組曲」

2001年5月20日 会場:さんかく岡山

上映作品:「O氏の肖像」「わたしのお母さん」「KAZUO OHNO」「Antologia」

魂を謳う大野舞踏の精華を舞台・映画・稽古などの映像記録で紹介

□ ダンス・フィルムグラフィー Vol.2

土方巽舞踏映像展「肉体の叛乱」

2001年9月9日 会場:デビットホール

上映作品:「肉体の叛乱」「東北歌舞伎計画」

「1000年刻みの日時計」「痲瘡譚」

作品解説:元藤燐子(舞踏家・土方巽夫人)

世界のButoh・暗黒舞踏の創始者を映像記録と夫人の解説で紹介

■岡山舞台芸術ゼミナール

2001年9月開講

舞台芸術の第一線で活躍するアーティストを講師に迎え本格的な人材育成講座を継続実施

事業支援：文化庁、岡山市、福武教育文化振興財団、セゾン文化財団

【第1次第1期】

□戯曲創作講座「基礎コース（全4回）・創作コース（全7回）」

2001年9月1日～2002年2月3日 会場：西川アイプラザ

講師：岩崎正裕

OMS 戯曲賞作家・岩崎正裕による岡山初の本格的な戯曲創作講座

□シンポジウム「どうする!? 演劇の担い手づくり」

2001年10月14日 会場：西川アイプラザ

コーディネーター：小堀純

パネリスト：北村想（プロジェクト☆ナビ主宰）

岩崎正裕（劇団太陽族主宰）、

秋津シズ子（ピッコロ演劇学校講師）

長崎司（岡山市文化政策課課長）

岡山市と共催で取り組む人材育成事業のキックオフ・シンポジウム

□劇場探訪講座

2001年11月10日 会場：伊丹市立アイホール

ナビゲーター：岩崎正裕、劇団太陽族

伊丹市のアイホールで太陽族の公演鑑賞後にバックステージツアー

□リーディング公演「Family Tale ～家族の嘶～」

2002年2月17日 会場：西川アイプラザ

演出・構成：岩崎正裕

戯曲講座の全作品を岩崎正裕が1編に再構成してリーディング上演

□アフタートーク「演劇始め」

2002年2月17日 会場：西川アイプラザ

対談者：坂手洋二（劇団燐光群）、岩崎正裕

岸田戯曲賞作家・坂手洋二を迎えて地域演劇のこれからを対談展望

【第1次第2期】

□戯曲講座・短編創作コース

2002年6月2日～12月15日 会場：旧後楽館高校教室

講師：岩崎正裕

初年度の成果をもとに岩崎正裕による短編戯曲を対象にした創作講座

□戯曲講座・長編創作コース

2002年6月22日～11月17日 会場：旧後楽館高校教室

講師：松田正隆

中四国からの参加者による岸田戯曲賞作家・松田正隆の長編戯曲創作

□演技講座

2002年6月1日～10月6日 会場：旧後楽館高校教室

講師：水沼健

劇団MONOの俳優・水沼健を講師に迎えて役者への必須技量を指南

□プロデュース公演

「発酵」「溺れる金魚」

2003年2月22日23日 会場：西川アイプラザホール

作：「発酵」(中井久美・長編創作)

「溺れる金魚」(林田恵里・短編創作)

演出：水沼健

短編創作と長編創作のコースから選抜された戯曲作品を連続上演

□アフタートーク

2003年2月23日 会場：西川アイプラザホール

対談者：岩崎正裕、松田正隆、水沼健

上演終了後に戯曲と演技の講座講師による総括トークセッション

【第1次第3期】

□戯曲講座

2003年6月28日～11月30日 会場：旧出石小学校教室

講師：松田正隆

実作を主体にした長編戯曲づくりを数々の戯曲賞に輝く劇作家が指導



コンテンポラリーダンス入門

2002年に岡山県立操山高校の開校記念事業にコンドルズ公演を提案し開催したことが契機となり、翌年に近藤良平のダンスワークショップが3Daysで実現した。その後、近藤氏とはJCDNの「踊りに行くぜ!」でも協働した。

□俳優講座

2003年5月9日～11月2日 会場：旧出石小学校教室

講師：水沼健（演技実習）、北村成美（身体訓練）、池内美奈子（発声）

俳優修業の必須スキルを

各ジャンルの一線級アーティストが実践指導

□舞台技術講座

2003年5月31日～12月7日 会場：西川アイプラザホール

講師：吉本有輝子（照明）、大塚和真（舞台美術）

長崎達也（音響）

公立文化施設の舞台機構を活用した基礎と実技を習得する実習講座

□特別集中講座「コンテンポラリーダンス入門」

2003年5月23日24日25日 会場：旧出石小学校体育館

講師：近藤良平

コンテンポラリーダンスの自由な身体表現を全身で体験する3日間

□特別集中講座「俳優万華鏡」～チェーホフからカンゾー先生まで～

2003年7月13日 会場：旧出石小学校体育館

講師：柄本明

舞台上に銀幕に活躍する名優が「絶望」から始まる俳優修業を全公開

□特別集中講座「ドキュメンタリー演劇の手法」

2003年11月24日 会場：旧出石小学校教室

講師：坂手洋二

社会事象を演劇表現へと高めてゆくドキュメンタリー手法を学ぶ

□特別集中講座「虚実のはざま リアルを描く」

2004年1月17日 会場：旧出石小学校教室・周辺フィールドワーク

講師：岩崎正裕

座学だけでなく会場周辺のフィクショナルな場所を探訪レクチャー

□戯曲研究会

2003年10月12日～2004年4月6日 会場：森谷邸（岡山市北区）

講師：有志による共同研究

古典芸能に焦点をあて近松門左衛門の浄瑠璃や歌舞伎の世界を読み論じる

【第1次第4期】

□戯曲講座

2004年6月26日～11月28日 会場：旧出石小学校教室

講師：松田正隆

現代演劇の最前線で活躍する劇作家による実作指導もハイレベルへ

□演出講座

2004年4月25日～11月21日 会場：旧出石小学校教室

講師：水沼健

戯曲の解読から稽古の手法 技術との連携まで体系的な実践指導

□俳優講座

2004年9月25日～11月21日 会場：旧出石小学校教室

講師：水沼健、わかぎあふ

演出講座と連動しながら、定式化されないタフな俳優養成をめざす

□現代舞踊講座

2004年4月17日～12月18日 会場：旧出石小学校教室

講師：須光

「誰もが踊れる」をモットーにダンスのすそ野を広げるプログラム

□舞台技術講座

2004年5月2日～12月1日 会場：西川アイプラザホール

講師：吉本有輝子（照明）、大塚和真（舞台美術）、長崎達也（音響）

田和伸二（舞台監督）

舞台づくりの奥義をプロが伝授。成果はプロデュース公演にて発揮

「俳優万華鏡」

～チェーホフからカンゾー先生まで～

講師の柄本明の開口一番は「絶望する」ことだった。演劇ワークショップの参加者に演じることへの問いかけをすることで動機づけを引き出していった。



舞台技術講座・照明

当時すでに演劇・ダンス分野で数々の秀作舞台を手掛けていた照明家・吉本有輝子の貴重なワークショップであった。「技術」入門ではなく、舞台に関わることの勇気や覚悟や至福をレクチャーする時間となった。

- アートマネジメント講座
2004年6月1日～11月30日 会場：ゼミナール事務局
講師：大森誠一
予算計画から企画立案、公演運営にいたるまでを実例をもとに講義
- 【第1次第5期】
- 戯曲講座
2005年7月16日～2006年1月15日 会場：旧後楽館高校教室
講師：松田正隆
外国戯曲の朗読と戯曲作品の創作をミックス。劇作力を多彩に磨く
- 演技・演出講座
2005年5月29日～8月28日 会場：旧後楽館高校教室
講師：坂手洋二、水沼健、ペーター・ゲスナー、仲田恭子
表現の異なる4人の演出家による4様の演技と演出のメソッドを実習
- 【第1次第6期】
- コンテンポラリーダンス・ワークショップ&レクチャー
2006年7月7日8日 会場：岡山シンフォニーホールスタジオ2
講師：湯浅永麻
国際的なネザーランド・ダンス・シアター（NDT）所属ダンサーが指導
- 【第1次第7期】
- ダンスシャワー 2007
2007年7月13日～16日 会場：岡山国際交流センター
講師：湯浅永麻
前年に続いてNDT所属ダンサーから世界水準を踊り・学ぶ4日間
- 【第2次第1期】
- 表現する身体と言葉に出会う ～呼吸・ヨガ・音楽を活かした岡本メソッド～
2008年8月9日10日 会場：さんかく岡山会議室
講師：岡本章
音楽・現代演劇・舞踏を領域としてきた演出家による公開レッスン
- 現代日本の名作戯曲を読む Vol.1 <1946年～1965年>
2008年8月15日～12月20日 会場：岡山市民会館会議室
講師：大岡淳
戦後新劇の変節から60年代の不条理演劇に至る代表11作品を朗読
- いま社会が演劇に求めていること ～平田オリザが語る芸術立国論～
2008年9月10日 会場：西川アイプラザホール
講師：平田オリザ
大胆な指摘と提言で話題を呼んだ「芸術立国論」を著者自身が解説
- 自然でリアルな表現のために ～現代演劇の基礎レッスン～
2008年9月27日28日 会場：岡山シンフォニーホールスタジオ
講師：角ひろみ
劇表現のリアルとはなにか、身体と言葉のありようを体験的に訴求

- 表現者のためのコンタクト・インプロヴィゼーション
2008年11月23日24日 会場：本涌山本行寺
講師：モノクローム・サーカス
舞踊・演劇に求められる立ち方・自分と他者の感じ方をトレーニング
- 【第2次第2期】
- NDTダンスシャワー 2009
2009年6月26日27日28日 会場：本涌山本行寺
講師：湯浅永麻、小尻健太
NDT所属メンバーからイリ・キリアンのメソッドを体験する3日間
- 身体表現図鑑
2009年7月3日4日5日 会場：本涌山本行寺
講師：山下残
身体表現の自在な可能性を切り拓いてきた山下残のワークショップ
- 現代日本の名作戯曲を読む Vol.2 <1962年～1969年>
2009年7月24日～12月5日 会場：岡山市民会館会議室
講師：大岡淳
アングラ演劇が登場し変革の時代を主導した記念碑的10作品を朗読
- コンタクト・インプロヴィゼーションとの出会い
2009年9月11日12日13日 会場：本涌山本行寺
講師：モノクローム・サーカス（坂本公成、小寺麻子）
さまざまな触れ方／感じ方で動きを創作していく心と体の対話ダンス
- マイム新感覚 視覚で感じる。動きで魅せる。
2009年10月3日4日 会場：本涌山本行寺
講師：じゅんじゅん
視覚的効果と身体表現を結びつけたパントマイムの新感覚を体験
- 【第2次第3期】
- 現代日本の名作戯曲を読む Vol.3 <1970年～1979年>
2010年6月25日～12月11日 会場：岡山市民会館会議室
講師：大岡淳
高揚と挫折の1970年代に誕生した傑作戯曲10作品を朗読と解説
- 【第2次第4期】
- ダンスワークショップ「祈りの彼方へ」
2011年7月27日28日29日30日 会場：本涌山本行寺
講師：湯浅永麻、ミゲル・オリベyra
東日本大震災の影響下におけるダンスと身体のスリリングな出会い

■ C. T. T.

- 2008年4月発足
Contemporary Theater Training 創作過程を鑑賞・批評し作品の完成度を高める試演会
- セレクション in 岡山
2008年4月19日20日 会場：本涌山本行寺
上演作品：「12分」（正直者の会・京都）
「グリーン・ジャパン」（ブンメシ+劇団無色透明・広島）
「OH! フランキー」（チームぼちっと・岡山）
「銃の凍てつく温度」（演劇ユニット水壺塔・岡山）
"30分以内の作品"+「合評会」+「観客採点」の三要素で構成
- OKAYAMA第1回上演会
2009年3月14日 会場：本涌山本行寺
上演作品：「Stand by me」（やなる企画・ダンス）、「矢印」（石原ユキオ・朗読）
「ノコサレタ熱」（☆1000 シュカシュー糖・演劇）
応募のあった個人・団体からダンス・朗読・演劇の3作品を上演

Column

各分野のトップクラスの講師陣が続々登場
地域で学び、地域で育つワークショップ&レクチャー

地方にいても舞台芸術や文化芸術の専門的かつ本格的な表現が学べる機会を設けようとする組んだ人材育成・教育普及のワークショップは、主催事業から協働事業まで多岐に及んだ。

主な講師陣は以下のとおり。(敬称略)

【演劇】つかこうへい、北村想、岡本章、松本雄吉、坂本長利、九條今日子、金満里、平田オリザ、坂手洋二、宮城聡、久保井研、金守珍、柄本明、松本修鐘、下辰男、劇団態変、深津篤史、岩崎正裕、松田正隆、土田英生、水沼健、泊篤志、中島諒人、ピッコロシアター、古市福子、わかぎえふ、大岡淳、和田喜夫、長谷川孝治、田辺剛、ペーター・ゲスナー、池内美奈子、高津幸男、永山智行、多田淳之介、ノゾエ征爾、田上豊、村川拓也、角ひろみ、菅原直樹、小宮孝泰、仲田恭子、他

【ダンス】山田せつ子、元藤輝子、岩下徹、近藤良平、小野寺修二、藤田桃子、モノクローム・サーカス、山下残、砂連尾理、北村成美、平井優子、須原由光、湯浅永麻、小尻健太、大谷燠、じゅんじゅん、白神ももこ、ミゲル・オリベyra、ヴォルフガング・シュタンゲ、他

【伝統芸能】田賀屋夙生（狂言）、善竹十郎（狂言）、桂文之助（落語）、他
【舞台技術】カミイケタクヤ（舞台美術）、吉本有輝子（照明）
大塚和真（照明・美術）、黒木重行（照明）、長崎達也（音響）、渡辺悟（音響）
田和伸二（舞台監督）、他

【映画/映像】山崎樹一郎、想田和弘、松田完一、伊東大輔、他
【美術/建築】秋元雄史、向井修一、能勢伊勢雄、大塚聡、佐野宣夫、他
【音楽】小室等、藤原麻紀、小暮はな、他

【文学】大森静佳（短歌）、秋山基夫（詩）、北川透（詩）、他
【その他】神崎宣武（民俗学）、赤澤輝彦（日本酒）、辻均一郎（日本酒）
鈴木暉二郎（行政）、市山裕之（行政）、他

【批評】扇田昭彦、小堀純、西堂行人、梅山いつき、太田耕人、小暮宣雄、他
【アートマネジメント】伊藤裕夫、吉本光宏、衛紀生、高萩宏、加藤種男、片山正夫、間瀬勝一、草加叔也、重政良恵、松井憲太郎、蔭山陽太、二村利之、廣川麻子、大森誠一、他

戯曲講座・長編創作コース

劇作家・松田正隆を岡山舞台芸術ゼミナールの開講2002年から2005年まで講師として招聘した。講座には中四国一円から受講者があり、松田氏の透徹した指導から生まれた作品は毎年戯曲集として上梓された。



コンテンポラリーダンス・ワークショップ&レクチャー
国際的なダンスカンパニーNDTに所属していた湯浅永麻と帰国後早々に実現した。ワークショップではNDTの振付家イリ・キリアンのメソッドを活用するなど貴重な体験が繰り返された。

□OKAYAMA第2回上演会

2010年4月10日 会場：本涌山本行寺
上演作品：「無題」(就実高校文芸部+石原ユキオ・岡山)
「紙風船」(演劇ユニットてんこもり堂・京都)
「傘がない」「手がない」(坂口修一ひとり芝居・大阪)
「無題」(マドモアゼル愛子・岡山)
分野・地域・世代・プロ・アマなどを越えたCTTならではの上演

■アートとファームの学校

2014年5月開講

人材育成と普及啓発を目的とする自主事業として芸術文化から生活文化までを横断して実施

□短い戯曲を書いてみる講座

基礎編 2014年5月24日～7月19日 創作編 10月4日～12月6日
会場：丸の内テラス
講師：田辺 剛
戯曲の基礎・専門知識から実作指導まで誰でも創作できる機会を提供

□短歌ワークショップ第1期「31文字の私に出会う」

2015年5月9日～12月12日 会場：丸の内テラス
講師：大森静佳
短歌の豊かで深い世界を歌会・吟行・歌合せなどを経て成果として連作集を上梓

□劇作家発掘トレーニング講座「名作を読む、奥義を知る」

2015年10月24日～2016年3月12日 会場：丸の内テラス
講師：田辺 剛
古今東西の名作戯曲10編を読み解く。3ヵ年計画講座の1年目

□劇作家発掘トレーニング講座「長編戯曲を書き下ろす」

2016年5月21日～12月3日 会場：丸の内テラス
講師：田辺 剛
3ヵ年計画講座の2年目は「読むから書くへ」長編戯曲の創作に挑戦
□劇作家発掘トレーニング講座「長編戯曲を書き下ろす」
2017年5月27日～11月25日 会場：吉備路文学館/丸の内テラス
講師：田辺 剛
3ヵ年計画講座の3年目は長編戯曲の完成とリーディングをめざして創作

□短歌ワークショップ第2期「31文字の私に出会う」

2017年9月2日～2018年2月3日 会場：吉備路文学館
講師：大森静佳
短歌の豊かで深い世界を歌会・吟行・歌合せなどを経て成果として連作集を上梓

□短歌ワークショップ第3期「31文字の私に出会う」

2018年9月8日～2019年2月2日 会場：吉備路文学館
講師：大森静佳
短歌の豊かで深い世界を歌会・吟行・歌合せなどを経て成果として連作集を上梓

□短歌ワークショップ第4期「31文字の私に出会う」

2019年9月29日～2020年3月8日 会場：吉備路文学館
講師：大森静佳 批評会ゲスト：松村正直
短歌の豊かで深い世界を歌会・吟行・歌合せなどを経て成果として連作集を上梓

□短歌ワークショップ第5期「31文字の私に出会う」

2020年11月28日～2021年2月28日 会場：吉備路文学館
講師：大森静佳 批評会ゲスト：楠智英、土岐友浩
短歌の豊かで深い世界を歌会・吟行・歌合せなどを経て成果として連作集を上梓

□短歌ワークショップ第6期「31文字の私に出会う」

2021年9月23日～2022年2月5日 会場：本行寺/吉備路文学館
講師：大森静佳 批評会ゲスト：江戸雪
短歌の豊かで深い世界を歌会・吟行・歌合せなどを経て成果として連作集を上梓



現代日本の名作戯曲を読む Vol.1～3 (1946年～1979年)

演出家・批評家の大岡淳を講師に迎え、戦後新劇の潮流から60年代に台頭した不条理演劇やアンガラ演劇、その高揚と挫折から生まれた70年代以降の劇作まで。年代ごとに約10篇の名作・傑作戯曲を選抜し、リーディングと解説を継続した。



短歌ワークショップ

大学時代に角川短歌賞を受賞するなど天賦の才能で人気の歌人・大森静佳が講師となって、歌会・歌合せ・吟行など多彩な内容で2015年から継続。年度ごとに参加者の連作作品集を編んで出版を続けている。

■演劇の広場ワークショップ

2019年9月開始

2023年9月開館の岡山市の新しい文化芸術施設・岡山芸術創造劇場[ハレノワ]のプレ事業として、舞台美術のネットワークづくりを視野に入れたプロジェクト。毎月1回1人の演劇人を講師に迎えて6ヵ月間の継続事業となった。

事業支援：岡山市、岡山文化芸術創造

□演劇で出会う、バラバラな人たち

2019年9月21日(土)・22日(日)
会場：岡山市勤労者福祉センター・大会議室(岡山市北区春日町)
講師：永山智行(劇作家、演出家、劇団こぶく劇場主宰)
対象：障害のある人、高校生以上の一般参加、地域の演劇人
障害者を含めた多様な人々が集い、演劇の小作品づくりを通して多様性の豊かさを体験する。

□中学生と創作体験「演劇であそぼう」

2019年10月5日(土)・6日(日)
会場：深砥コミュニティハウス(岡山市北区中山下)
講師：田上 豊(劇作家、演出家、田上パル主宰、富士見市キラリふじみ芸術監督)
対象：岡山市内の中学生
演劇入門の観点から戯曲、演技、演出などについてチーム編成による創作と発表を行う。

□不登校やひきこもりの今からを楽しむ

2019年11月16日(土)・17日(日)
会場：岡山市民会館・会議室204(岡山市北区丸の内)
講師：多田淳之介(演出家、東京デスロック主宰)
対象：不登校やひきこもりの小学・中学・高校生とその保護者、一般成人
フリースクールやNPOと協力して、演劇の手法を使って人生を楽しむヒントを探す。

□親子で楽しむ「家族劇」あそび

2019年11月30日(土)・12月1日(日)
会場：岡山市民会館・会議室204(岡山市北区丸の内)
講師：角ひろみ(劇作家、演出家)
対象：小学生、保護者
小学生とその保護者を対象に、親子で楽しみながら「家族劇」を創って遊んでみる。

□演劇小作品を創作から発表まで

2020年1月11日(土)・12日(日)
会場：岡山市民会館・会議室204(岡山市北区丸の内)
講師：ノゾエ征爾(劇作家、演出家、俳優、劇団はえぎわ主宰)
対象：中学生以上の一般参加、演劇経験は不問
参加者の顔ぶれに合わせて演劇のショートピースを立案し、創作から発表までを試みる。

□老いを生きる+演じる至福の時間

2020年2月8日(土)・9日(日)
会場：岡山市民会館・会議室204(岡山市北区丸の内)
講師：菅原直樹(劇作家、演出家、俳優、介護福祉士、OiBokkeShi 主宰)
対象：高齢の人、介護する人、高校生以上
家庭や福祉の現場において直面する「老い」のドラマを演劇の手法を用いて体験する。

□記憶としての地図のワークショップ 新型コロナ禍により中止

2020年3月9日(月)・10日(火)
会場：深砥コミュニティハウス(岡山市北区中山下)
講師：藤田貴大(劇作家、演出家、マームとジブシー主宰)
対象：中学生以上、演劇経験は不問
参加者への質問をもとに一人ひとりが体験した時間や風景をひとつに繋げて発表する。

演劇の広場ワークショップ①

視覚障害の人や福祉作業所に通う人と社会人や高校生などが一緒になって演劇創作を体験。宮崎県で障害者も参画した劇団こぶく劇場を主宰する永山智行を講師に迎えて、楽しく豊かな演劇体験を行った。



演劇の広場ワークショップ③

ジャンルや地域・国籍を超えて演劇の多様な可能性を試みる演出家・多田淳之介を講師に招聘。不登校や引きこもりをサポートする地元のフリースクールや夜間中学校との協力を得ながら実現した。